

報告

二〇一〇年度大会の概況

日本思想史学会二〇一〇年度大会は、十月十六日(土)・十七日(日)の両日、岡山大学を会場として開催された。

第一日目は「近代日本の宗教―仏教を中心に―」をテーマにシンポジウムが開催された。

(立命館大学) 桂島 宣弘

趣旨説明 報告

宗教的学知の形成―仏教学を例に―

(愛知学院大学) 林 淳

帝国と仏教

(佛敎大学) 大谷 栄一

コメント

(東北大学) 佐藤 弘夫

シンポジウム終了後に総会が行われ、評議員より二〇〇九年度事業報告および決算報告がなされ、それぞれ承認された。続いて二〇一〇年度事業計画および予算案が提出され、それぞれ評議員案通り決定された。また、会長から第四回日本思想史学会奨励賞の発表と授与が行われた。受賞業績は次の二作品である。

小平美香 『女性神職の近代―神祇儀礼・行政における祭祀者の研究―』

桐原健真 『吉田松陰の思想と行動―幕末日本における自己認識の転回―』

引き続き、岡山大学南福利施設にて懇親会が開催された。

第二日目のパネルセッション・研究発表の発表者と発表

題目は以下の通りである(研究発表の副題省略)。

(パネルセッション会場)

パネルセッション1…両大戦間期日本における戦争と平和

(名古屋大学) 川田 稔

(同志社大学) 出原 政雄

(長江師範大学) 藤村 一郎

パネルセッション2…平田国学研究の課題と可能性

(東海大学) 田尻祐一郎

(相模女子大学) 吉田 麻子

(國學院大学) 遠藤 潤

パネルセッション3・近代仏教と真宗の問題
(国際基督教大学) 小島 康敬

(東北大学) 桐原 健真

(宗教情報リサーチセンター) 碧海 寿広

(日本学術振興会) オリオン・クラウタウ

(福山大学) 引野 亨輔

研究発表

〈第一会場〉

1、柳田民俗学批判 (元昭和专业科大学) 古田 武彦

2、「作為」の論理は近代思想か？ 丸山眞男の議論の再

検討と朱子学の現代的意義 (愛知学院大学) 下川 玲子

3、津田左右吉・裁判と戦後体験

(高知女子大学) ジョエル・ヨース

4、二神約諾思想と三社託宣に関する一考察

(皇學館大学) 山口 剛史

5、林羅山『本朝神社考』における靈験の位置付け

(国際基督教大学) 鈴木 孝子

6、天明の京都大火と中井竹山

(東京大学大学院) 清水 光明

7、平尾魯僊の安政2年(1855)における蝦夷地旅

行について

(ブリテイッシュ・コロンビア大学大学院) 藤原義天恩

8、幕末における自然法的天理の形成過程

(福岡医療福祉大学) 檜原 孝俊

〈第二会場〉

1、福沢諭吉における非合理的な「人情」への対処

(東北大学大学院) 島田雄一郎

2、独歩の死生観の発展と小説の相貌

吉川 宜時

3、ラファエル・ケーベルと高山樗牛

(国立国会図書館関西館) 長尾 宗典

4、近代「国史学」と「韓国併合」

池田 智文

5、鄭成功論に見る日本人の境界

呉 華君

6、ハーグ平和会議をめぐる言説からみる「国際平和」

岡本 真奈

7、戦間期日本における国際「知」

(京都市立大学大学院) 岡本 真奈

〈第三会場〉

1、鈴木正三における伝記研究上の問題点

(愛知学院大学) 三浦 雅彦

2、石門心学の思想とその展開

(京都大学大学院) 澤井 努

3、近世中期における孝子顕彰の実態と意義

(京都大学大学院) Van Steenpaal Niels

4、「直毘靈論争」再考

(東北大学) 水野 雄司

5、暴力としての「もののあはれ」

(東北大学大学院) 和久井洋子

6、近世日本思想における「悪」の問題

(東京大学大学院) 李 維濤

7、朱熹『大学章句』説への対応に見る東アジア三国の

経学方法論の一例 (東京大学大学院) 姜 智恩

8、元禄期における「日用」言説の浮上

(京都大学大学院) 李 芝映

大会協賛企画として、岡山大学附属図書館中央館展示室にて、両日にわたり「岡山大学附属図書館所蔵貴重書展観」が開催され、池田家文書を中心とする同館所蔵の諸史料が公開された。